

# 八社参り③

## 八日市場を歩く

3回目となる「八社参り短  
路コース」は、田町区にまつ  
られる「天満宮」と「辯財天」  
をお参りしました。

「八社参り」のパンフレット  
に「合格祈願・学力向上」の  
ご利益が書かれていているように、  
天満宮は平安時代初期の菅原  
道真をまつり、「学問の神」と  
して信仰されています。

ここの天満宮は八日市場村  
の3人が願主となり、184



田町池端、太鼓橋の先にまつられる「辯財天」

99（寛政11）年正月に「田町氏子中」と福善寺の末寺・正光院によりまつられました。毎年7月1日の浅間参りは現在も続けられているようです。  
辯財天は、田町池端の、かつて用水に使用されたとみられる池の太鼓橋を渡った先にまつられています。水の守り神として信仰された名残なのでしよう。

2（天保13）年5月に石祠（石の宮）がまつられました。境内の石灯笼や手水石も村人が寄進し、1803（享和3）年8月造立の大杉大明神の石祠は「惣若者中」がまつりました。大杉神社の本社は茨城県稲敷市安波にあり、「あんば様」と呼ばれ市内でも石祠がいくつかあります。

「八社」には含まれていませんが、浅間神社の石祠は17

これら「八社参り」には多くのご利益があるそうです。  
江戸時代の神社には、寺院の本末寺帳のような統一的な記録はありませんでした。

明治になり、1879（明治12）年に神社の祭神由緒社殿、境内、氏子数などについて県に提出された「千葉県神社明細帳」は、その後の改正・訂正や削除などがあり、神社の変遷をたどることができるとされています。現在の中央地区、当時の八日市場村でこの明細帳に記載されるのは、八重垣神社、東照宮、浅間神社、八幡大神、猿田彦大神の5社で、これが継承され、この5社が「千葉県宗教法人名簿」に掲載されています。明細帳に由緒があるのは、八重垣神社と東照宮の2社のみです。

市民の方から「仲町の八幡大神としているが、神社管理を仲町区と砂原区が共同で行っている。説明が誤っているのではないか」とのご指摘をいただきましたので、同神社の部分を訂正します。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

閩秘書課広報広聴班

☎73・0080